

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW



vol. **99**
November
2014

International University of Health and Welfare

海外保健福祉事情

第4回

幸齢者スクール

第5回

キッズスクール

第4回

国際医療福祉大学学会
学術大会

かぎ
はな
さい
風花祭

第19回 大田原キャンパス



October 11 Sat ~ 12 Sun 2014

大田原キャンパス かざはなさい

第19回

風花祭

今年のテーマは

「One Step Forward ~歩き出せば未来がかわる~」

19回目を迎える風花祭をこれまでにないものにしていくために、その一歩を踏み出す勇気や志を持ち、それに向かって進んでいこうという強い思いが込められている。すでに大型台風が北上を始めていたが、会期中は晴天に恵まれ、初日は汗ばむほどの陽気となった。(大田原キャンパス広報室 金井雅之)



11日には、教育後援会「会員のつどい」が開催され、本学の糸山泰人副学長が「脳の話~不思議で大切な宝物~」のタイトルで記念講演を行った。



屋内イベントも充実



手話研究部メビウスによる手話劇「桃太郎」



煙草や酒の危険性を訴えた薬学部中毒学研究室

●小田原キャンパス(潮風祭)、●福岡キャンパス(蓮翔祭)、●大川キャンパス(月華祭の様子)は10、11ページをご覧ください。



かなり貴重なショット!「サインをする与一くん」



ご当地キャラの与一くんも来場

ベストカップルコンテストでは2年連続優勝の珍事も



こちらは昨年の優勝場面

今年の模擬店新作メニューの中から...



看護学科4年の「冷やしパイン」



Service Dog サポートメンバーによる「トルティーヤ」



陸上部の「たこ焼き風スイーツ」



剣道部の「やきとり」



継続は力! 被災地支援



4年目となった被災地支援。今年も宮城県岩沼市の新鮮野菜を仕入れて販売し、さらにこれらを使ったシチューも完売。売上金 136,579円を寄付しました。



例年、大田原キャンパスで開催される国際医療福祉大学学会学術大会、キッズスクール、幸齢者スクールは、「社会に開かれた大学」を基本理念のひとつとする本学ならではの取り組みとして、すっかり定着している。今年も、教育、医療、福祉関係者や地域の方など、多くの参加者を得て、盛況のうちに執り行われた。

(大田原キャンパス広報室 金井雅之)

第四回国際医療福祉大学学会学術大会

八月三〇日、三十一日の二日間、大田原キャンパスにて、「第四回国際医療福祉大学学会学術大会」(大会長・早川正道国際医療福祉大学塩谷病院院長)が開催された。



●開会式で挨拶する早川大会長

今回のメインテーマは、「超高齢社会における保健医療の取り組み」―健康長寿社会を目指して―。他国に先立って超高齢社会を迎えるにあたり、我が国は、現状の医療の常識と枠組みを大きく転換する必要性に迫られており、健康寿命の延長をめざした保健医療的な取り組みが重要になってくることを反映してのテーマ設定となった。

一般演題は口演とポスター発表を合わせて二・三六題に及んだ。また、二日間の会期中、三つの特別講演、二つのシンポジウム、がんブローガンプロフェッショナル養成基盤推進プラン公開講座、学科特別企画などが開催され、実り多い学術大会となった。

この大会に先立ち、一日目の午前に「関連職種連携実習報告会」が開催され、学生をご指導いただいた実習先の担当者などが見つめる中、三つの教室で一八チームの学生が実習の成果を発表した。



●関連職種連携実習報告会での質疑応答場面

第五回キッズスクール

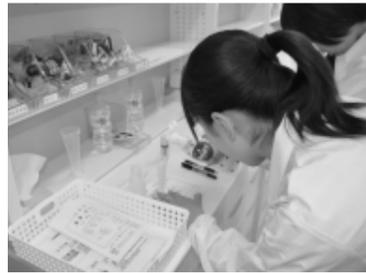
八月六日、「キッズスクール」(協賛：ネットトヨタ栃木株式会社、共催：大田原市・大田原市教育委員会・栃木県教育委員会「栃木県子ども大学」)を開催した。

小学生六〇名と中学生六〇名の定員制で、小学生は理学療法士、言語聴覚士、視能訓練士、福祉職などの分野で、主に医療福祉サービスを受ける側として、中学生は看護師、診療放射線技師、作業療法士、薬剤師、診療情報



●内視鏡模擬手術は毎年人気のコーナー

管理士といたった医療福祉に従事する側として各分野を体験した。共通体験企画の「内視鏡シミュレータを操ってみよう」では内視鏡手術を体験し、「補助犬の仕事を理解しよう」では身体が不自由だった目が見えない人たちの手足や目となつて働いてくれる補助犬について学んだ。最後に、北島政樹学長から参加者一人ひとりに「ヘルスケア・ジュニアリーダー認定証」が手渡された。



●白衣を着て調剤体験

1日目の主なプログラム

- 関連職種連携実習報告会
- 学科特別企画
- 開会式
- 北島政樹学長、早川正道学術大会大会長特別講演I
- 「認知症の予防と支援―家庭や地域社会における患者とのかわり」
- 若本俊彦 国際医療福祉大学塩谷病院 高齢者総合診療科部長ポスターセッション
- 特別講演II
- 「高齢者の生活機能改善とリハビリテーションの役割―活動が活動を変える―」
- 太田喜久夫 国際医療福祉大学病院 リハビリテーション科部長特別講演III
- 「百寿者から超百寿者調査へ―健康長寿要因の探求―」
- 広瀬信義 慶應義塾大学医学部 百寿総合研究センター特別招聘教授

2日目の主なプログラム

- 口述発表
- 医学臨床実習発表会(がんブロー生発表)
- シンポジウムI
- 「医療・介護現場における多職種連携業務の現状と課題」
- 石坂正大 保健医療学部 理学療法学科助教
- 大内真奈美 介護老人保健施設マロニエ苑 看護副部長
- 中村裕義 国際医療福祉大学三田病院 薬剤部長
- 鈴木裕 国際医療福祉大学病院副院長、外科上席部長
- 福島道子 保健医療学部 看護学科長
- シンポジウムII
- 「感染症の問題点―古くて新しい課題―」
- 倉田毅 国際医療福祉大学塩谷病院 中央検査部長
- 賀来満夫 東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座 感染制御・検査診断学教授
- 四ノ宮成祥 防衛医科大学校 分子生体制御学教授
- 「文部科学省事業「がんブローフェッショナル養成基盤推進プラン」―一般市民公開講座・講演会―
- 「からだにやさしい」がん治療―手術用ロボットの進歩―
- 前立腺がんロボット手術の話を中心に
- 内田克紀 国際医療福祉大学病院 腎泌尿器外科部長



●シンポジウムIでのディスカッションの様子



●一般市民の前に、手術用ロボット「タ・ウィンチ」を紹介する内田教授



●熱気のあったポスターセッション会場



●質疑応答に応じる若本教授

第四回幸齢者スクール

九月一八日、恒例となった「幸齢者スクール」が開催された。

午前の部は「元気で幸せないきライフ―地域でつなごう健康の輪!」をテーマに、小淵千絵言語聴覚学科准教授が「聞こえにくいのはなぜ?―加齢による難聴とその対処―」、旭満里子薬学科長が「クスリと食べ物の飲み合わせ」と題して講演を行った。



●この先2年間での転倒する確率を測定

午後の部の医療福祉体験学習には七七名のアクティブシニアがグループに分かれて参加した。「聴こえチェック」、「漢方薬調剤」、「転倒未来日記」、「骨密度測定」コースと「数文字ゲーム」、「消費者保護制度」、「いきいき体操」、「見え方と注意力」コースに分かれて体験した後、医療費についての講話があり、最後に修了証が手渡された。



●修了証を手にする参加者

2.3 特集1 第19回風花祭 大田原キャンパス



4.5 特集2 大田原キャンパス秋のイベント

国際医療福祉大学学会学術大会/キッズスクール/幸齢者スクール

6-9 特集3 海外保健福祉事情

韓国・台湾・タイ・ミャンマー・ベトナム・シンガポール・オーストラリア

キャンパスレポート

10-12 小田原キャンパス/福岡キャンパス/大川キャンパス/大学院 塩谷看護専門学校

学校法人国際医療福祉大学決算報告

トピックス

- 13 成田特別講演会を開催/シンポジウム「医療・介護改革を展望する」を開催/国際医療福祉大学学会学術大会・学科特別企画「日本の医療福祉が直面する五つのリスク」を開催
- 14 全国リハビリテーション学校協会 教育研究大会・教員研修会のご報告/北島政樹学長が日本ハンガリーポランド外科学会を会長として主催/第59回日本音声言語医学会総会・学術講演会を開催/ミャンマー祭り2014に出展
- 15 ミャンマーへの医療協力を積極的に推進/元培醫事科技術大学留学生歓迎会を開催/TOEIC公開講座を開催

施設インフォメーション

- 16 高木病院/国際医療福祉大学病院/国際医療福祉大学塩谷病院
- 17 国際医療福祉大学三田病院/国際医療福祉大学熱海病院/山王病院/化学療法研究所附属病院
- 18 同窓会通信
- 19 生涯学習のご案内
- 20 学生投稿ページ

海外保健福祉事情

今年も夏休みを利用して総合教育科目「海外保健福祉事情」が実施された。三か月の国内事前研修ののち、七か国九か所、一グループにわかれて、約二週間、それぞれの国の保健福祉事情を自分の目で見、肌で感じてきた。参加者は学生四七二人、教職員二四人の総勢四九六人にのぼった。

【主な研修先】	
・韓国	仁済(インジエ) 大学校
	建陽(コニヤン) 大学校
	大邱韓医(テグハニ) 大学校
・台湾	元培(ユンペイ) 醫事科技大學
	・タイ
	クリスチャン大学
	・ミャンマー
	国立ヤンゴン第一医科大学
	・ベトナム
	国立チヨライ病院(ニグループ)
	・シンガポール
	ナンヤンポリテクニク
	・オーストラリア(ホームステイ)
	TAFE(ニグループ)

レポートでは、医療福祉の状況やとらえ方など、研修国と日本で異なる点や共通する点を発見したこと、言葉が通じない中でコミュニケーションを工夫したこと、さらに、お互いの文化を紹介し合いながら大きく心が通じ合ったりしたことなどが報告されており、今後の勉強や将来の見据え方に大きな刺激を得る研修になったようだ。

仁済(インジエ)大学校

目に見えた成長を今後に役立ててほしい

福岡保健医療学部 理学療法学科
准教授 永井良治

八月四日から一四日、仁済大学校で学生三八名(理学三〇名、作業五名、言語三名)が研修を行った。仁済大学校とは二〇〇九年に大学間協定が結ばれ、これまでに二五六名の学生が研修に参加した。

韓国の医療事情と文化について学ぶことの研修のために、対外交流処により詳細なプログラムと手厚いサポートが準備されていた。特別講義(韓国の医療事情)や病院訪問を通じて、日本との違いについて深く学ぶことができた。また、学生交流では、戸惑いと不安を抱えていた学生もK・POPダンスを通じてコミュニケーションも日に日に上達した。



●ジャパン・デーにて

研修中にみせた積極性、他者への感謝と配慮、自信を大学生活に生かしてほしい。決して日本では経験できないこの経験を思い出話に終わらせず、これまで以上に有意義に役立ててもらいたい。

利用者の視点で考えることを学んだ

福岡保健医療学部 言語聴覚学科二年
大木想子

最初のうちは言葉や文化の違いに戸惑ったが、韓国の学生や先生方の歓迎を受けて、すぐに打ち解けることができた。リハビリテーションの分野では韓国は発展途上で、特に言語聴覚士は二〇一三年、第一回目の国家試験が行われたとのこと。病院や施設に常駐する言語聴覚士の数は日本よりはるかに少なく、一人で複数の患者さんの訓練を行っていた。基本的な訓練方法の違いはなかったが、日本では言語聴覚士が担当する口腔内ケアや嚥下訓練などは歯科や作業療法士が行うなど相違点も見られた。韓国は高齢化の進行が非常に早いため、病院や施設などにも充実した設備や対応できる人材が求められる。些細な変化にも対応できるように病室にモニターが設置されているなど、利用者の視点から物事を考えることは日本も見習うべきだと感じた。

建陽(コニヤン)大学校

勉強の習慣が身についている韓国の学生

福岡看護学部 看護学科
学科長 長弘千恵

八月四日から一四日、大川地区の学生三五名、福岡地区の学生九名、教員

法や実習の方法、衛生管理など多くの違いを発見し、改めて日本の医療の素晴らしさを感じる。同時に、韓国から学ぶべき点も発見できた。今後、医療に携わる者として日本の良い面をしっかりとし、さらに良い医療を提供するために、自分にできることは何かを考えながら学業に取り組んでいきたい。

元培(ユンペイ)醫事科技大學

さらなる学習意欲をもって臨んでほしい

保健医療学部 言語聴覚学科
学科長 城間将江

元培醫事科技大學国際部の先生方やスタッフの皆さんが、台湾の医療福祉事情や看護教育に関する講義、病院や老健施設の見学、中国語・台湾文化の学習など、体系的なプログラムを用意してくださった。そのうえ、明るく元氣なボランティア学生二〇名が二四時間体制で対応する、日本人顔負けの「おもてなし」を受けた。そのためか、言語研修や文化交流を目的に、ヨーロッパ、南アメリカ、タイ、日本の他大学の学生も来学していた。本研修は本学の高木邦格理事長と蔡雅賢理事長の信頼関係で成立しているが、今後は指名制になる可能性もあり、その時、本学は選ばれるか? それは、個々の学生の言動と学習意欲にかかっていると思われる。心して研修に臨んでもらいたいと感じた引率であった。

二名が、医療・文化・交流をキーワードに研修を行った。研修地の医系キャンパスはソウルから車で約一時間の大田市にあり、医学部、看護学部、健康科学部、大病院、がんセンター、障害児福祉館などが併設されている。学生寮に宿泊し、通訳生ボランティアなどによる世話、学科毎の交流などが用意されていた。

日本の学生が一番ショックを受けたのは、卒業要件として、①指定図書を四年間で二〇〇冊以上読んでレポートすること、②TOEIC六五〇点以上(医学部は八〇〇点以上)を取得すること(課されていることである。「こういう大学は少なくないですよ」と言う韓国の学生を見て、以前から韓国留学生はよく勉強すると思っていたが、勉強する習慣がついているのだと納得した。



●韓国式のガウンテクニックにとまどった

見習いたい福祉施設の設定

福岡保健医療学部 言語聴覚学科二年
横手隆明

病院や福祉施設の見学をとおして、韓国の福祉事情や医療体制について学んだ。当初は、言葉が通じない不安があったが、

医療についてのグローバルな視点を実感

福岡看護学部 看護学科三年
浅井岳

台湾の医療制度は、システム化やIT化が驚くほど進歩しており、元培醫事科技大學での産学連携の取り組みなどからグローバルな世界観を実感した。また、伝統的なお盆の行事を含む生活文化を直接肌で感じるなど、日本での事前学習やインターネット情報では学ぶことのできない貴重な体験を通して、社会のあり方について考えてみる機会となった。

異なった言語で自分の想いを伝えることは難しくしたが、中盤以降は中国語、英語、日本語を総動員したコミュニケーション力も高まり、意思疎通が可能となり充実した研修や交流が図れた。

医療や看護に関する共通点と違いを知ることで視野が広がり、これからの自分の課題を見つけることができた。二〇名のボランティア学生をはじめ多くの方々へ感謝している。謝辞。



●新竹市政府訪問

日韓医療事情の違いを学ぶ

福岡保健医療学部 医学検査学科
教授 福島伯泰

八月一日から二日まで、昨年間開設した医学検査学科にとって初めての海外福祉事情研修が、大邱韓医大学校で行われた。大邱韓医大学校は大都市の大邱市近郊に位置し、学生数約六〇〇〇名で五学部を有する総合大学である。臨床検査技師養成校の研修受け入れは初めてのことであったが、施設見学、講義のほか検査実習もあり、非常に充実したプログラムを準備していただいた。

大邱韓医(テグハニ)大学校

韓国人サポーターのわかりやすい通訳のおかげで、スムーズに見学できた。韓国では、言語聴覚士の国家資格制度は数年前にスタートしたばかりで、嚥下訓練などの一部は、作業療法士が行うなど、日本との違いも見られた。また、韓国の高齢化は日本と比べて急速なため、福祉施設の設備はとも充実しており、日本も見習うべきだと思った。

学生との交流で、私たちは紙飛行機けん玉、メンコ、福笑いといった日本の遊びを紹介した。けん玉と福笑いはほとんどの学生が初めてで、交流をとおしてより距離が詰まったと感じた。異国の文化・医療・福祉を肌で感じ、医療人の礎を築く経験になった。

初めての実習体験で知識を深めた

福岡保健医療学部 医学検査学科二年
福谷洋子

今回の研修は医学検査学科のみであったため、PCR法についての実習をさせていただいた。これは特定のDNAだけを増幅させる遺伝子増幅法であり、臨床検査において非常に重要な手法である。私たちは日本でPCR法についての座学は学んできたが、実習は初めてであったため、知識をより深めることができた。この経験が日本に帰ってからの授業で生かすことができたらと考えている。



●PCR法の実習風景

また、実習の中で日本と道具の使用

タイ

クリスチャン大学

やはりタイは微笑みの国

福岡看護学部 看護学科
准教授 山口みどり

私にとって一五六年ぶりのタイ訪問となり、日本の高度経済成長期もこんな感じだったのかと思いが、まず、その経済発展と変貌ぶりに驚いた。

三回目を迎える本研修は、大川・福岡から計二四名が参加した。クリスチャン大学(以下CTU)での講義、医療福祉施設見学、公衆衛生省・エイズ村訪問、文化交流など多彩なプログラムが用意され、タイの医療福祉制度や現状(医療格差)について学び、学生同士の交流も深めることができた。全行程にわたり、CTU教員・学生の温かいホスピタリティにより充実した研修になった。経済発展に伴いタイ人の微笑みも減りつつあるというCTU教員の言葉も聞かれたが、微笑みの国は健在である。CTUも国際化に向けた人材育成に力を入れていく。今後も両校の交流活動の継続・発展を望む。

人間として成長した貴重な時間

福岡看護学部 看護学科三年
吉田星葉

この研修で一番強く感じたのは、コミュニケーションの難しさである。私たちを含め、英語を流暢に話せる人は

傷病者などに対象を限定している病院との違いを目の当たりにし、格差社会に驚いた。研修内容は、それぞれの病院の特色を比較しながら、ベトナムの医療事情に触れられるプログラムになっていた。チョーライ病院では、学生の専門性に見合ったプログラムに急速変更するという臨機応変な調整をしていただき、有意義な研修となった。学生同士が教え合い、学び合う姿が日増しに見られるようになった。この貴重な体験を生かし、今後の学生生活をより充実させてほしいと願う。

自信につながった二週間

福岡保健医療学部 医学検査学科二年
江口遥奈

医学検査学科の第一期生の私たちは、ベトナムの検査室をしっかりと訪問した本学で初めて学生だろう。どの施設も大変親切に迎え入れてくださった。チョーライ病院では、毎日異なる検査部門を訪問し、さまざまな体験をした。特に血液検査部門での血球の算定、微生物部門でのグラム染色標本の作成が印象に残っている。大学附属病院の検査室も見学したが、大きな声が飛び交い活気にあふれていた。各施設のスナックと英語で懸命にコミュニケーションをとったことも良い経験である。他国の病院の検査室で実際の業務を体験できたことは、間違いなく私たちの自信となったはずだ。ジャパン・デーは歌や踊りで大変盛り上がり、双方の文化に触れることで、言葉の壁を超えてたくさんの人と親交を深めることができた。

特集3

海外保健
福祉事情

ベトナム・シンガポール・オーストラリア

少なく、伝えていることを理解するために表情や仕草から読み取ることが集

中した。自分の伝えたいことが伝わらないこと、相手の伝えたいことがわからないことに、もどかしさや不甲斐なさを感じた。こうした気持ちは日本では経験できないと思う。タイの学生たちは私たちの気持ちを止めようと、諦めずに耳を傾けてくれた。文化や風土の違いばかりではなく、日本と似ている「おもてなしの心」に触れることができた。来客者に対して必ず歓迎会を開くという習慣、この際、丁寧な挨拶と集合写真は必須で、どんな出会いも大切にしている。医療従事者になる者として、人間的に成長できる時間を過ごすことができた。



●演習室見学の様子

人生の思い出に残る体験

保健医療学部 看護学科
講師 デッカー清美

ミャンマー 国立ヤンゴン第一医科大学

八月七日から二〇日、学生二名(大田原キャンパス六名、福岡キャンパス五名)を含む一三名が初のミャンマー研修に参加し、ヤンゴン大学の教員の引率により、心のこもった温かい「おもてなし」と歓迎を受けた。

七月に訪問されたミヤッタウンダール長のヤンゴン看護大学、テック・カイン・ウイン学長のヤンゴン第一医科大学、ナイン・ウイン学長のヤンゴン医療技術大学のほか、リハビリテーション病院、ヤンゴン総合医科大学病院、地域の健康センター等を訪問しミャンマーの医療状況を学んだ。ヤンゴン第一医科大学では、香港からの医学生五名も加わり、辞書や筆記、ジェスチャーを交えながら英語で活発に意見交換がされていた。帰国する頃には、英語でのコミュニケーションを積極的に取るうとする姿が見られた。



●ヤンゴン第一医科大学のキャンパスにおいて

WE LOVE MYANMAR

保健医療学部 看護学科二年
武田彩香

初めのミャンマー研修に参加し、保健医療福祉や文化を自分たちの目で見て学んできた。ヤンゴン看護大学をはじめとする教育機関や、日本の援助によって建てられた通称JICA病院



●チョーライ病院のリハビリテーション部門を見学

シンガポールでは開業するPTやOTも

福岡保健医療学部 理学療法学科
准教授 高野吉朗

九月六日から一六日、理学療法学科と作業療法学科の学生二〇名と引率教職員二名が、シンガポール唯一の理学療法士(P.T)・作業療法士(O.T)養成校である国立のナンヤンポリテクニクでの研修に参加した。講義は静岡県からの現地駐在員による歴史・政治・経済の説明、教員による保健福祉制度の紹介等があった。施設見学では、最先端病院でのロボットセラピー、リハビリ専門病院や精神科病院での理学療法、福祉施設での職業リハビリなどが用意されていた。シンガポールではP.T・O.Tに開業権が与えられており、開業クリニックも訪問した。現地学生との交流プログラムなどでは英語でのコミュニケーションにも熱心に取り組んだ。加えて、スタッフの温かいおもてなしを受け、大変充実した内容の研修となり、学生の満足度は高かった。



●校内施設見学

TAFE ホームステイ

福岡保健医療学部 医学検査学科
教授 永沢善三

八月一九日より約一週間、学生五八名(大田原九名、川四九名)および引率教職員三名はゴールドコーストの専門学校TAFEで研修を実施した。



●介護老人施設でのジャパン・デー

ホームステイで得た経験を生かしたい

小田原保健医療学部 理学療法学科二年
渡邊なつみ

私のグループは八月六日から一九日まで、小田原、福岡、大川キャンパスの学生九二名、引率教員四名が参加した。TAFEでの英語の授業のほか、病院・老人保健施設等を見学した。はじめは先生の英語を理解するのに時間がかかったが、毎日英語に触れていくうちに、次第に聞き取れるようになった。また、授業の内容は医療に関するものが多く、オーストラリアと日本の医療の違いについても考えることができた。ホームステイ先のホストファミリーは皆温かく迎え入れてくれた。毎日TAFEまで送迎してくれたり、お弁当を作ってくれたり、休日にはテニスパークやショッピングモールにも連れて行ってくれた。今回の経験は人生の中で大きな記憶として残り、将来は日本のみならず、海外との関わりを考えられる医療従事者が必要だと感じた。

などの医療機関、老人施設、コミュニティを見学した。ミャンマーは、最近市場開放されたため、医療技術と設備、機器の遅れを感じざるを得なかった。しかし、医療技術の遅れや人員不足にもかかわらず医療が成り立っているのは、医療従事者の患者さんへの強い思いによるものだと知り、この思いによって支えられている医療は、これから発展していくのだろうと思った。街の至る所に、パゴダと呼ばれる黄金に輝く仏塔があり、民族衣装を着て街を歩いた。食事はミャンマー料理や中華料理が中心だった。親しみやすく優しい方が献身的にサポートしてくださった。

ベトナムの医療の格差に驚く

福岡保健医療学部 言語聴覚学科
准教授 安立多恵子

第32回 小田原

キャンパスレポート

【第九回潮風祭開催】

一〇月一〜二日、第九回潮風祭が小田原キャンパスにて開催された。今年のテーマは「Chance for Change」変わるなら今でしょ！



●来場者を迎えるエントランスの装飾



●子育て支援センター「おだび」との連携企画は今年で3年目を迎えた

自分たちが楽しめる、はもちろん、来場者の方、地域の方にも楽しんでほしいとの願いを込めてのテーマ。例年通りの催しに加え、至るところに新たな試みが加えられ、テーマに沿った潮風祭となった。

第36回 大川

キャンパスレポート

辻貞俊学部長が2つの賞を受賞



●盾を手にする辻貞俊学部長

一般社団法人日本てんかん学会が、同学会での功績を評して授与する「功労賞」に、福岡保健医療学部の辻貞俊学部長が選ばれた。一〇月二日に授賞式が行われ、記念の盾が授与された。

辻学部長は、「昭和四二年に設立された同学会で、神経内科学分野の研究者が表彰されたのは初めてとなり、この分野の研究者にとっては大変意味のあること」、「本学ならびに、前職の産業医科大学の関係者のご支援の賜物」と語った。また、辻学部長は昨年一月に一般社団法人日本臨床神経生理学会の第三回学会賞を受賞。「同学会には臨床検査技師や理学療法士も所属しており、この受賞は本学の教員にとっても励みになるのでは」と期待している。

(九州地区広報室 原田ちはる)

【第一〇回月華祭開催】

一〇月一〜二日、月華祭が大川キャンパスで開催された。今年のメインテ



●特別講演会は、前田眞治教授による「温泉がもたらす健康効果」

- 【来場者数】
- 一日目 三〇八名
- 二日目 二二一名
- 合計 五一九名



(学務課 下田岳史)

【ボランティア活動等表彰式】

小田原キャンパスでは、ボランティア活動を推奨するとともに、ともに活動する仲間の輪を広げることが目的とした、ボランティア活動等表彰制度がある。

一〇月一日、平成二六年度の表彰式が潮風祭のプログラムのひとつとして行われ、三三名の学生が表彰された。ボランティア活動等を行った学生は、それぞれのボランティア活動等についてポスターを作成し、潮風祭に会場された方々に見ていただいた。

今後も、学生のボランティア活動が活発に行われることを期待したい。(総務課 高久晃)

第22回 福岡

キャンパスレポート

【第六回連翔祭開催】

一〇月一八日、晴れ渡る秋空のもと、第六回連翔祭を福岡キャンパスで開催した。今年のテーマは、ありのままの自分たちを見ていただき、学生同士はもうろん、ご来場くださる方々とも絆を築いていこうという思いから、「絆 Let it go」ありのままに

メイン会場では、バンド演奏、うたうま、女装・男装コンテスト、ミスコン・ミスターコンなど、恒例の企画で、学生の個性を生かしたパフォーマンスが繰り広げられた。普段の学校生活では見られない学生の特技や素顔を見ることができ、出場者と観客が楽しい時間を共有した。



●いろいろな屋台で来場者をおもてなし

サークルによる屋台は、焼きそば、たこ焼き、カレーライス、フロート等で、慣れない手つきながら愛情をこめて、訪れた人たちをもてなした。看護演習室の看護体験コーナーでは、

血圧測定と高校生対象の実習着の試着撮影が行われた。昨年、高校生としてこの体験に参加した学生が撮影場所を提案し、高校生の質問に答える姿からは、看護学生としての優しさと自信があふれていた。

特別講演会として本学福岡保健医療学部学部長の辻貞俊教授による「もっと知りたい認知症〜超高齢社会に向けて〜」が行われ、高校生をはじめ多くの方に会場いただいた。高校生にもわかりやすい講演で、参加者にとって意義のある時間となった。

そのほか、八月の海外研修で学んできた各国の保健、医療、福祉サービス、異文化体験などを展示した国際交流ブースや助産学分野の大学院生による模擬授業「高校生・大学生のための性教育」思いやりのある男女関係を〜等の企画にも多くの人が興味を持って参加された。

実行委員が中心となり、充実した連翔祭を実施することができ、学生と参加者との間に強い「絆」が築かれた一日となった。(福岡看護学部 教授 下條三和)

第6回 大学院

キャンパスレポート

【オープンキャンパスを六キャンパス同時開催】

九月一五日、大学院としては二回目となる進学説明会(オープンキャンパス)を六キャンパス同時に開催した。今年も新たな試みとして、午前・午後

の二部制とし、午前の部は保健医療学専攻志望の方、午後の部は医療福祉経営専攻、臨床心理学専攻、薬学研究科、薬学研究科志望の方を対象とした。来場者数は一六三名となり、昨年の一〇四名を上回った。午前・午後の部とも、天野上席副大学院長の挨拶で始まり、大学院の特長、大学生活、入試の説明に続き、各分野(専攻、研究科)にわかれての進学説明会を行った。キャンパスを遠隔システムでないでの説明会や、修了生・在学生によ



●全体説明会の様子

る相談コーナーの設置、教員と一对一の個別相談など、分野(専攻科、研究科)ごとに工夫を凝らして参加者の皆様にアピールした。また、午前の部と午後の部の間に、特別講演会「医療福祉の世界で輝く女性性のキャリアアップ」と大学院での学び」を開催。杉原素子副学長、院長、桃井眞里子副学長、荒木田美香子教授(看護学分野責任者)による講演のほか、ミャンマーからの留学生、ヌエ・ニ・ティンさん、薬学研究科の院生、長谷川フジ子さんも登壇し、参加者は熱心に聞き入っていた。(※本イベントは、外務省主催「WAW! Tokyo 2014 Shine We ek」の公式サイドイベントとして開催された)



●個別説明会の様子(看護学分野)

(九州地区広報室)



第14回 塩谷看護専門学校 専門学校

キャンパスレポート

【スポーツ大会を実施】

一〇月三日 塩谷看護専門学校では「スポーツ大会」を行った。以前は地元の矢板市市営体育館で開催していたが、平成二十一年に国際医療福祉大学に継承されて以降、大田原キャンパス内の体育館（那須アスリーナ）を会場としている。

当校は、一学年定員四〇名・総学生数二二〇名である。体育館内には、声援と熱気とさわやかな汗がほとばしり、広い体育館が狭いような錯覚も感じられるほどであった。

競技は卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボールなどがあつたが、学年対抗で行われた「大縄跳び」と「綱引き」が最大の注目競技で、各学年は意地と体力とプライドと総合優勝の賞金とをかけて戦った。また、教職員もそれぞれの競技に参加し（特製ユニフォーム着用）、学生チームとの体力の差を痛感した。

一年生は入学してからまだ六か月。しかし、「看護という共通のキーワード」が最強の武器。二年生は数えきれない演習や技術試験をとおして深まった「言葉の交わりなくとも気持ちで伝え合える団結力」。そして、三年生は「臨地実習で培った知恵と底力」を武器に、

それぞれの学年の特長を前面に押し出して全力を發揮した。各学年とも密かに練習を行い、必勝作戦を練るほどの熱の入れようで、「すでに筋肉痛です」と苦笑する学生もいたほどだった。

結果は総合優勝有力の三年生を抑え、一年生が総合優勝。近年、三年生が総合優勝を手にしてきただけに、ため息と歓喜が体育館を満ちた。と同時にこの一年生に潜む確かな輝きを

一日に「看護の誓いの式」がある。看護の原点を著した「ナイチンゲール誓詞」を日々練習し、そこに込められた看護の原点を見出そうとしている。二年生は一〇月中旬から始まる基礎看護学実習Ⅱに向け看護技術の練習に励んでいる。そして、三年生は二月二三日の国家試験に向けて、看護師になる夢を叶えようと、朝の七時半にはすでに教室で問題集に向かっている姿がある。



このスポーツ大会は、学生の力を引き出す屏かもしれないと実感するこの頃である。
（専任教員 益子久江）

成田特別講演会を開催

九月七日、千葉県成田市の成田国際文化会館で「国際医療福祉大学成田特別講演会」を開催した。



●壇の中央で聴衆に語りかけるように話す香山先生

本学は二〇一六年四月に、成田市公津の杜（こうづのもり）に成田看護学部、成田保健医療学部の二学部五学科の開設を計画している。今回、千葉県成田市とその周辺地域の方に本学を広く知っていただくことを目的とした特別講演会を実施した。

当日は、本学の北島政樹学長による大学紹介、精神科医の香山リカ先生、本学大学院の和田秀樹教授の特別講演

に引き続き、金融機関系の研究所、各職能団体のトップなど、医療福祉の専門家によるパネルディスカッションを実施した。パネルディスカッションでは、現在、大きな課題となっている習得や大都市における医療福祉専門職の不足に関して、千葉県の現状と、新学部・学科開設による量と質の両面における寄与など、データを用いて活発な議論が行われた。会場には、成田市の小泉一成市長、関根賢次、藤田礼子の両副市長、上田信博市議会議長をはじめ総勢六一五名の方が来場し、三時間半におよぶ特別講演会を熱心に聴講された。



●千葉県での医療福祉専門職不足について討論された

会場内には進学相談コーナーも設置し、本学への進学に興味のある高校生からの質問にも対応した。

アンケートでは、地域の医療福祉を担う専門職の養成機関として、本学の今後の展開に期待する声が多く寄せられた。

（東京事務所広報部 三浦星夢）

平成25年度

学校法人国際医療福祉大学 決算報告

帰属収入は、福岡保健医療学部医学検査学科の開設等により、学納金収入が前年比三億円以上増加し、また、四附属病院の医療収入も前年比二億五千万円以上の増収となり、帰属収入総額は前年比約二億三千万円増加の四九六億円となった。

一方、消費支出は、前年比約二億三千万円増

加の四六一億円となった。これらの結果、学校法人全体での帰属収支差額は、前年比ほぼ横ばいの約三億五千万円の収入超過となった。現預金残高は二二〇億円、総資産額は一〇五六億円となり、また、純資産（基本金の部合計十消費収支差額の部合計）は六八八億円に達し、安定的な財務体質を維持している。

（東京事務所 経理部）

科目	本年度末(平成26年3月31日)			前年度末(平成25年3月31日)			増減
	本年度末	前年度末	増減	本年度末	前年度末	増減	
資産の部							
固定資産	79,740,870	78,729,982	1,010,888				
有形固定資産	79,139,547	78,108,454	1,031,093				
土地	33,338,886	32,603,048	735,838				
建物	33,875,770	34,685,535	△809,765				
構築物	1,122,279	1,179,056	△56,777				
教育研究用機器備品	3,552,802	3,419,935	132,867				
その他の機器備品	6,307,925	5,310,247	997,678				
図書	845,652	810,643	35,009				
車輜	86,153	80,565	5,588				
建設仮勘定	10,080	19,425	△9,345				
その他の固定資産	601,323	621,528	△20,205				
流動資産	25,861,022	24,516,180	1,344,842				
現金預金	22,067,161	20,880,805	1,186,356				
その他の流動資産	3,793,861	3,635,375	158,486				
資産の部合計	105,601,892	103,246,162	2,355,730				
負債の部							
固定負債	25,758,811	26,213,547	△454,736				
長期借入金	22,497,591	23,326,893	△829,302				
その他の固定負債	3,261,220	2,886,654	374,566				
流動負債	12,992,568	13,711,762	△719,194				
短期借入金	1,579,302	1,703,862	△124,560				
その他の流動負債	11,413,266	12,007,900	△594,634				
負債の部合計	38,751,379	39,925,309	△1,173,930				
基本金の部							
第1号基本金	72,526,118	69,433,826	3,092,292				
第4号基本金	3,446,000	2,973,000	473,000				
基本金の部合計	75,972,118	72,406,826	3,565,292				
消費収支差額の部							
消費収支差額の部							
翌年度繰越消費支出超過額	9,121,605	9,085,973	35,632				
消費収支差額の部 合計	△9,121,605	△9,085,973	△35,632				
負債の部、基本金の部および消費収支差額の部 合計	105,601,892	103,246,162	2,355,730				

科目	本年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)			前年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)		
	本年度	前年度	増減	本年度	前年度	増減
消費収入の部						
学生生徒等納付金	9,458,581	9,771,311	312,730			
手数料	241,185	265,911	24,726			
寄付金	547,363	1,171,093	623,730			
補助金	1,996,107	1,302,521	△693,586			
資産運用収入	110,072	93,619	△16,453			
資産売却差額	294	1,200	906			
事業収入	421,346	435,993	14,647			
医療収入	34,168,097	35,681,985	1,513,888			
雑収入	394,512	926,294	531,782			
帰属収入合計	47,337,557	49,649,927	2,312,370			
基本金組入額	△3,126,970	△3,565,292	△438,322			
消費収入合計	44,210,587	46,084,635	1,874,048			
消費支出の部						
人件費	18,754,240	19,484,474	730,234			
教育研究経費	3,333,490	3,476,810	143,320			
医療経費	13,080,758	13,331,766	251,008			
管理経費	8,245,916	8,760,505	514,589			
借入金等利息	288,495	280,554	△7,941			
資産処分差額	80,911	779,933	699,022			
徴収不能引当金繰入額	7,898	6,225	△1,673			
消費支出合計	43,791,708	46,120,267	2,328,559			
消費収支差額	418,879	△35,632	△454,511			
帰属収支差額	3,545,849	3,529,660	△16,189			

※帰属収支差額:帰属収入から消費支出を差し引いた金額。企業会計の当期損益に該当するもの。*

大学院・国際医療福祉総合研究所 シンポジウム「医療・介護改革を展望する」を開催

九月二日、本学大学院および国際医療福祉総合研究所の主催によるシンポジウム「医療・介護改革を展望する」をホテルニューオータニで開催した。

今回のシンポジウムは、医療と福祉をテーマに二部構成で開催。それぞれのパートで、内閣社会保障制度改革国民会議会長代理で厚労省中央社会保険医療協議会元会長の遠藤久夫学習院大学経済学部長、医療介護総合確保促進会議議長、社会保障審議会介護給付費分科会長の田中滋慶慶義塾大学名誉教授をはじめとする、医療福祉分野の第一線で活躍するゲストによる基調講演とパネルディスカッション等が行われた。



●多くの来場者で埋まった会場

当日は、約五〇〇名もの来場があり、盛況のうちに閉幕した。国際医療福祉総合研究所では次回以降も、多くの方に求められる多彩な企画を展開していく予定である。

（大学院東京青山キャンパス 相澤有紀）

大田原キャンパス 医療福祉マネジメント学科 国際医療福祉大学学会学術大会 学科特別企画「日本の医療福祉が直面する五つのリスク」を開催

八月三十一日、元毎日新聞主筆で、本学の総合教育センター長を務める菊池哲郎教授を講師に招いて開かれた第一八回医療経営戦略セミナーは、国債発行残高が一〇〇兆円を突破したにもかかわらず、財政危機などへの意識が薄い国民やマスコミに警鐘を鳴らす刺激的な内容だった。



●会場を沸かせた菊池哲郎教授・総合教育センター長

菊池教授によると、わが国といえどもデフォルト（債務不履行）と無縁ではなく、農産物の関税自由化だけを話題にする環太平洋経済連携協定（TPP）をめぐるマスコミ報道など、専門の経済問題から政治に及ぶまで、鋭い舌峰でマスコミ批判を繰り広げた。政治、経済、外交、エネルギー問題を縦横に論じた切り口に、会場からは「目からウロコ」、「歯に衣着せぬ熱弁」といった感想が寄せられた。

（医療福祉マネジメント学科教授 金野充博）

全国リハビリテーション学校協会 教育研究大会・教員研修会 ご報告

一般社団法人全国リハビリテーション学校協会（高木邦格理事長）は八月二日～三日、「第二七回教育研究大会・教員研修会」（大会長・種村純川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科教授）を川崎医療福祉大学（岡山県倉敷市）にて開催した。「リハビリテーション教育の核を問う」をメインテーマに、講演やシンポジウムなどを開催し、全国各地から、これまで最多の五一八名が参加した。



●開会式で挨拶する高木理事長

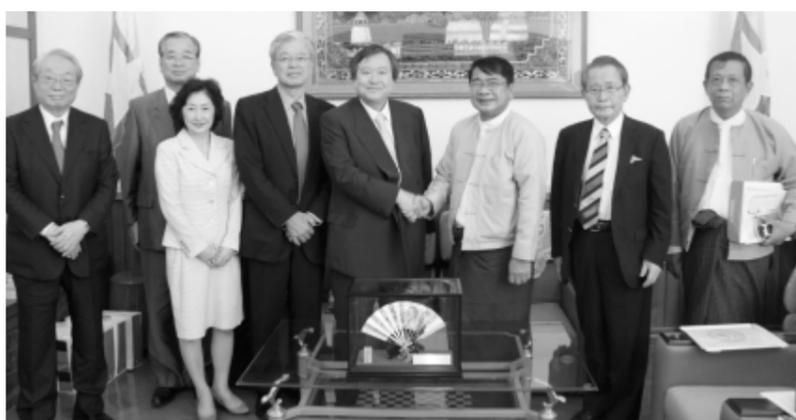
初日には、宇都宮啓（独）国立国際医療研究センター企画戦略局長、国際医療協力局長が講演を行い、平成二六年度診療報酬改定を起点とした地域包括ケアの推進とリハビリテーションについて説明された。本学関係者としては、最終日に言語聴覚学科の畔上恭彦教授によるS Tカンファレンス「発達障害を疑われる学生の実態把握と各校の取り組み」が行われた。

そのほか、口述発表とポスター発表を合わせて、昨年を上回る一三八演題の研究発表が行われた。

（東京事務所総務企画部 中田英臣）

ミャンマーへの医療協力を積極的に推進

本学では、ミャンマーを対象とした医療協力の一環として、IUHW奨学生を受け入れや国際医療シンポジウムの開催、協定校からの教員の研修受入等の医療協力を積極的に推進している。



●タン・アウン保健大臣と（ネビドーにて）

先ごろ、さらなる協力についての意見交換を目的として、本学の高木邦格理事長、佐藤禎一学事顧問、小川聡三田病院長、中村秀一国際医療福祉総合研

北島政樹学長が 日本ハンガリーポロランド 外科学会を会長として主催

（一〇月七日～九日、本学の北島政樹学長が大会長を務めた「第六回日本ハンガリーポロランド外科学会」が、慶應義塾大学で開催された。本学会は二〇〇一年に日本ハンガリー外科学会としてブタペストで発足、今回ポロランドが加わった初の三か国大会で、世界の外科領域に関する最新情報の提供・意見交換、諸問題の研究を通じたレベルの向上が目的である。

開催国の会長として、北島学長が外科的疾患の治療・診断に関する充実したプログラム計画を準備。その結果、三か国から二二二もの演題が集まり、当日も一八〇名が参加、大盛況のうちに閉会した。

初日の会長招宴には、「二国間医学会」の門出を祝し、在ポロランド日本国大使および在ハンガリー日本国公使も出席された。今後、三か国の親交と外科学会における友好関係が一層深まること

が期待されている。（東京事務所広報部）



●前列左：北島学長、中央：ポロランドGregorz Wallner教授、右：ハンガリー-Jozsef Sandor教授



●前列左：北島学長、そのとなり：高木邦格理事長

第59回 日本音声言語医学会総会・ 学術講演会を開催

一〇月九日～一〇日、「第五九回日本音声言語医学会総会・学術講演会」がアクロス福岡（福岡市中央区）で、翌一日に「ポストコングレスセミナー」が本学福岡看護学部で開催された。

福岡保健医療学部言語聴覚学科長で日本言語聴覚士協会会長の深浦順一教授が、言語聴覚士として初めて会長を務め、為数哲司教授（同学部言語聴覚学科）が事務局長として中心的に準備・運営を行った。今年「音声言語医学の未来へ」をメインテーマとして音声、聴覚、構音、嚥下、言語発達の領域に係る特別講演、教育講演、シンポジウム、一般演題発表に加え、一般の方々が参加できる市民公開講座などが企画された。



●開会の辞を述べる深浦学科長

本学からは、藤田郁代教授（大学院言語聴覚分野）、城間将江教授（保健医療学部言語聴覚学科長）をはじめ一八名の関係者が演台に立ち、司会や発表を行った。また、本学の学生たちが今回の総会・学術講演会を聴講できたことや、運営に積極的に関わることができたことは今後の彼らの学びとなる有意義な経験となったようだ。

（九州地区広報室 平川奈央）

ミャンマー祭り 2014に出展

一〇月一八～一九日、東京都港区の増上寺で「ミャンマー祭り2014」が開催され、本学は協賛団体として出展した。初日には、安倍昭恵首相夫人や駐日ミャンマー大使らによるレセプション式典に、高木邦格理事長、高木ひろ子会長、佐藤禎一学事顧問が参加した。

本学のブースには五〇〇名以上が来場し、民族衣装のミャンマー人留学生がお茶菓子を提供し、本学関連資料を配布した。パネル展示やDVD放映では、ヤンゴン三大学との協定締結や、現地への



●出展ブース前にて佐藤禎一学事顧問とミャンマー人留学生

本学の派生の派遣、七月に開催したミャンマー国際医療シンポジウムなど、本学とミャンマーとの交流・協力に関する幅広い活動を紹介した。晴天に恵まれ、来場者数は二日間

で五万九千名を記録。祭りは大盛況のうちに幕を閉じた。（東京事務所国際部 関亜紀）

大田原キャンパス 視機能療法学科 元培醫事科技大留學生 歓迎会を開催

台湾の元培醫事科技大学の視光系から三年連続で短期留學生三名が来日した。九月から来年一月まで、視機能療法学科の二年生とともに講義や実習に参加する。当初は慣れない地での生活で緊張している様子が見られたが、次第に学生と打ち解け、日本語や漢字、英語などを駆使して積極的にコミュニケーションを取る姿が見られた。

恒例により、国際室の協力で、歓迎会が開催された。三年生有志が講義や実習の合間をぬって準備し、学生や教職員約百名が留學生と交流を深めた。留學生による台湾語講座では挨拶などを学んだ。日本人には難しい発音が多かつたが、わかりやすい指導で、楽しく理解を深めることができた。



●最前列中央の3名が留學生

留學生にとつて実りの多い半年間となり、今後ますます両校の交流が深まるよう、学科を挙げてサポートしていく。学生には、国際医療福祉大学の名の通り、この経験をきっかけに海外に目を向けられる視能訓練士になることを望んでいる。

（視機能療法学科 助教 望月浩志）

総合教育センター語学教育部 TOEIC公開講座を開催

昨春秋に初の試みとして実施し、今年が二回目となった。今年も本学の学生だけでなく、近隣にお住まいの方など総数で五五名が受講した。一〇月から一月にかけて実施された講座では、スコアアップのためのスキルや英語の語彙や文法などを四回の講義で学び、五週目にはTOEIC I P（団体テスト）を受験する。TOEIC公開テストは栃木県でも実施されているが、おもに宇都宮市で実施されているため、県北では受験の機会がない。



●三浦美恵子助教による授業風景

この公開講座は試験対策を学べるとともに、大田原市でのTOEIC団体テストの受験の貴重な機会となる。TOEIC団体テストはTOEIC公開テストと同様に一般財団法人国際コミュニケーション協会によって実施され、スコアシートも同協会によって発行される。受講者からは今後同様の公開講座の開催を求める声も寄せられた。総合教育センター語学教育部では今後も試験対策講座に限らず、本学の学生や近隣の方が語学を楽しく学ぶことができる講座を提供していきたい。

（語学教育部 准教授 齋藤智恵）

施設インフォメーション

臨床医学研究センター(九州地区)

高木病院

高木病院 ● 国際医療福祉大学病院 ● 国際医療福祉大学塩谷病院

新棟が竣工、内覧会と記念講演、記念秋まつりを開催

九月三日と四日に、当院の新棟(急性期棟)完成に伴い、内覧会を開催した。



●急性期棟外観

棟を移設集約した。今後は、一〇〇㎡ある手術室に手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」の導入を検討している。

なお、一日には、九月より当院副院長長ならびに呼吸器センター長に就任した林真一郎教授による急性期棟完成記念セミナー「なぜをひいたと思ったら予防・早期対応から重症まで」を開催し、約一五〇名が来場した。



●秋まつりオープニングで挨拶する高木理事長

新棟では、主に急性期医療の充実を図るため、救急外来の移設拡充、手術室増設、ICU・HCUおよび急性期リハビリテーション専用のリハビリフロアを設置。さらに、外科や脳神経外科、泌尿器科、整形外科など外科系病

一三日は連携医療機関や大学病院、患者様などの招待者を中心に約五〇〇名が、また、一日は近隣をはじめ、一般の方約四〇〇名が新棟を見学した。

新棟では九月二三日より救急車の受け入れを開始し、その後、順次各診療科が稼働を始めている。また、今後は既存棟の大規模改装も実施する予定だ。地域に密着した救急医療・急性期医療をさらに充実させるべく、一丸となって取り組んでいる。

(九州地区広報室 中川麻衣子)

附属病院

国際医療福祉大学病院

最新治療機器の導入で、さらに地域医療の充実に貢献

当院の放射線治療センターでは、九月より最新型リニアック(体の外側から放射線を照射し、がんなどの病気の治療や痛みを緩和する機器)による放射線治療を開始した。これにより、従来の一般的な放射線治療や定位放射線治療(ピンポイント照射)に加え、画像誘導放射線治療(IGRT)という最新の治療が可能となった。治療直前に毎回、治療部位のCT画像を撮影して病変部位をより正確に特定できることで、周囲の正常組織へのダメージを軽減できることが特長だ。



●今回導入した最新型リニアック

さらに、一二月より強度変調放射線治療(IMRT)という最先端治療を開始する予定だ。これにより、形状が複雑な病変の治療をより精密に行えるようになり、特に前立腺がんの治療成績の向上が期待できる。

迅速かつ精密な放射線治療を患者様にご提供できるようになり、質の高い医療のご提供と合わせて、今後ますます地域医療の充実に貢献していく。

(総務企画課 小室秀明)

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

国際医療福祉大学ハンドベル部によるコンサートを開催

九月一六日、当院一階のロビーにて、当院CS委員会(委員長・上田昌弘眼科部長)の主催により、患者様向けのコンサートを開催した。今年度は国際医療福祉大学ハンドベル部の皆さんの協力を得て、二年ぶりに開催することができた。



●患者様だけでなく、付き添い職員も聞き入ってしまう美しい音色

診療受付や会計で待つ外来患者様に加え、ロビーには病棟からもたくさんの方の入院患者様が訪れ、七名の学生による心温まる手作りのコンサートに耳を傾けていた。演奏をひとしきり堪能した方からは、「来年はぜひ、クリスマスにコンサートを開催してもらえないでしょうか」という要望が寄せられるほど、大変素晴らしい院内コンサートとなった。

(総務課 塚原祐介)

附属病院

国際医療福祉大学三田病院

第一回BLS研修会を開催

一〇月四日、当院で第一回BLS研修会を開催した。BLS(Basic Life Support=一次救命措置)は心肺停止患者を救命する知識と実践スキルで、医療従事者にとって必須である。当院が取得をめざすJCI基準も、患者様と直接関わる職員が必要時にBLSを施行できることを求めており、今後一年間にわたり、月二回、延べ六〇〇名程度の職員を対象に研修会を開催していく計画だ。

第一回研修会には二二名の医師・看護師が出席した。講義と小グループでの実践練習の後、筆記と実技テストがあり、合格者には修了証と認定バッジが配布された。実践練習は本番さながらで、皆真剣に取り組んだ。



●BLS研修の実践練習に熱心に取り組む参加者

今後心臓血管センターの岡部輝雄教授を中心とする「BLS部会」が、より安心して医療を受けられる病院になるための活動の一環として、BLS研修会を主導していく。

(総務企画課 森口磨美)

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

臨床研修指導医養成ワークショップを開催

一〇月四・五日、小田原キャンパスにおいて、当院主催による「第一二回国際医療福祉大学・高邦会グループ臨床研修ワークショップ」を開催した。北は栃木南は広島、愛媛など、広範囲からグループ内外の医師三六名が参加した。

本ワークショップは、「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」(平成一六年厚生労働省医政局通知)に則って開催されるもので、臨床経験八四か月以上の医師が本講習の修了により、厚生労働省が認める臨床研修指導医となる。

初期臨床研修の質を高めるための研修カリキュラムを、目標・方略・評価の三段階で検討し、指導医としてのあり方や役割および基本的な臨床能力を備えた研修医を育成する能力を身につけることを目標に、講義やグループワークなど、多彩な研修方式を組み合わせた内容で行った。



●ロールプレイのひとつ

今後、臨床研修体制の充実と質の向上に力を尽くしていく予定だ。

(人事課・研修管理事務担当 稲葉博之)

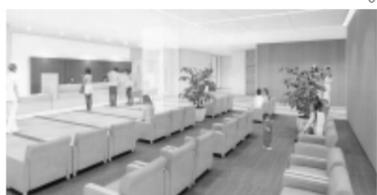
附属病院

臨床医学研究センター(東京地区) 山王病院

山王バースセンター(仮称)開設に向けて

当院は、二〇一六年一月に増築棟を竣工する。同時に、そこに新設する産科クリニック「山王バースセンター(仮称)」を三月にオープンすべく、現在準備を進めている。

同センターは、「お産の山王」として長い伝統と実績を誇る山王病院と連携し、さまざまな特色ある診療を行う予定だ。山王病院産科が主に計画・和痛分娩を行い、同センターは、妊産婦を中心に考えた多職種によるチーム医療で、より自然に近い形での分娩を行う。増築棟内にはICU・NICUを備え、これまで以上に万全の態勢を整える。また、わが国では数少ない「不育診療外来」や「胎児ドック外来」も開設する予定だ。



●山王バースセンターの受付(完成予想図)

従来の「母と子に寄り添った優しい病院」という基本理念を軸に、山王病院と同センターの双方がともに、患者様本位の温かなサービスをご提供し、患者様に信頼され、安心してご利用いただける産科をめざしていく。

(総務課 松橋悦子)

附属病院

臨床医学研究センター(千葉地区) 化学療法研究所附属病院

「骨密度・骨強度診断を併用した骨粗鬆症の精密診断」について

超高齢化社会によって骨粗鬆症の患者が増え、脆弱性骨折の手術は増加傾向にある。骨粗鬆症の正確な診断の重要性が高まるなか、当院では、二重エネルギーX線吸収測定法(DXA)による骨密度の定量診断とCT有限要素法による骨強度診断の二種類の診断法を行って



●8月に導入した骨密度測定装置。高い精度で評価が可能

前者は大腿骨頸部と腰椎の骨密度(骨量)測定法で、骨粗鬆症の予防と治療のガイドラインで推奨されている。後者は骨強度の定量を評価する診断法で、厚生労働省が先進医療として認可した施設のみ可能である。当院はこの骨強度診断を積極的に進めている。骨粗鬆症は、骨強度が低下し骨折しやすい状態のため、骨密度の評価だけでは不十分である。骨密度と骨強度は互いに関連はあるが、相違があることもあり、骨強度診断の併用が望ましいといえる。

(整形外科上席部長 大西五三男)

施設インフォメーション

国際医療福祉大学三田病院 ● 国際医療福祉大学熱海病院 ● 山王病院 ● 化学療法研究所附属病院

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学習の場を提供しています。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみならず、大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」 社会人が学びやすい3つの特長

- ① **キャンパス** 大田原、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に6つのキャンパスを開設しています。
- ② **カリキュラム** 多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行っています。
- ③ **同時双方向遠隔授業** 複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS 以下の分野で進学説明会を予定しています。

- 福祉支援工学分野 福祉用具管理指導者領域説明会: 12月11日(木)、1月16日(金)
- 医療経営管理分野 「医療経営戦略(h-MBA)コース」説明会: 12月14日(日)
- 助産学分野(大田原)説明会: 12月6日(土)

詳細、お申し込みは大学院ホームページ「イベント情報」をご覧ください。

<http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/index.html>

大学院入試に関するお問い合わせは入試事務室まで (TEL: 0287-24-3200)

学べる! 役立つ! 究める! 動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ 医療福祉eチャンネル <http://www.ch774.com> 好評配信中

主な配信番組

- **理学療法分野**
呼吸リハビリテーションの有用性・汎用性
- **作業療法分野**
第51回作業療法全国研修会(岩手)
- **言語聴覚分野**
摂食・嚥下リハビリテーションの実際
- **介護・福祉分野**
自立支援型ケアマネジメント・自立支援介護2013
- **医療・福祉・経営実務**
日本総合健診医学会(第42回大会)
※無料配信、病院再生セミナー2013
- **厚生労働省情報**
生活困窮者自立支援制度
全国担当者会議
(平成26年9月26日開催) ※無料配信
全国介護保険・高齢者保健福祉
担当課長会議
(平成26年7月28日開催) ※無料配信

- **乃木坂スクール**
放射線生物学から緩和ケアまで
- **受験講座**
ケアマネジャー受験講座
- **情報BOX**
納得!カラダ事典
(健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします)

お問い合わせは フリーダイヤル 0120-870-774 医療福祉eチャンネル お客さま係 (月曜～金曜 9:00～17:00)
 Eメール info@iryuufukushi.com 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

学生向け動画配信サイト 「国際医療福祉大学VODライブラリー」 <http://www.ch774.com/student.php>

主な配信番組 ● **大学授業・副教材**
 文学論、教育学、ボランティア論、国際医療福祉論、生命倫理、医療福祉教養講義、日本近現代史、音声障害学、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学、等

広報誌 IUHW 99号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕 広報委員会
 栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000
 〔小田原キャンパス〕
 神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500
 〔福岡キャンパス〕
 福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4 ☎092-407-0805

〔大川キャンパス〕
 福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000
 編集：大田原キャンパス広報室 ☎0287-24-3210
 デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

<http://www.iuhw.ac.jp/>

同窓会通信

Vol.5

小田原キャンパスにて 同窓会開催決定!!

小田原キャンパス卒業生の皆様、こんにちは。同窓会事務局の下田です。
 今回は卒業生の皆さまにお知らせがあります!! 現在、各学科の卒業生を中心に、同窓会の開催を企画しています。
 今後、同窓生の皆さまには改めて開催のご案内を送付させていただきますが、簡単に開催日程をお知らせいたします。

小田原キャンパス 同窓会

日時：平成二十七年二月五日(日)
 一三時から開催
 場所：小田原保健医療学部
 内容：①同窓会 記念講演(一三時～一四時)
 ②各学科分科会(一四時三〇分～一六時)
 ③懇親会(一七時)

※懇親会開催場所は今後決定します。

記念講演では、本学大学院医療福祉ジャーナリズム分野責任者の大熊由紀子教授を演者にお招きし、講演していただきます。

記念講演後は、各学科のブースにわかれた分科会を開催し、終了後は学外に会場を移動し、懇親会を開催する予定です。
 来年度、本学は開学二〇周年を迎えることとなり、卒業生数は全キャンパスの学部、院生を含め一六六〇〇名を数えます。そのうち、小田原キャンパスでは、一期生から

五期生までの計七五二名の卒業生が全国各地の医療福祉施設等で活躍しています。まだまだ歴史の浅いキャンパスではありますが、今年度の四月に入学する新入生が記念すべき一〇期生となります。キャンパス開設一〇周年を目前とし大きな動きとしては、今年度の七月には旧小田原城内高等学校跡地に小田原キャンパス専用グラウンドが整備され、二〇一六年には、新たな校舎も完成する予定です。現校舎に加え、ますます学習環境と学生生活が充実いたします。

もちろん、変わらない部分も持ち合わせている小田原キャンパス。同窓生の皆さん、二月の同窓会を機に改めて懐かしいキャンパスに足を運んでみませんか?

(小田原キャンパス同窓会事務局 下田岳史)



●小田原キャンパス同窓会幹事 集合写真「同窓会で皆さまにお会いできることを楽しみにしています!」

平成二六年度同窓会「マロニエ会」九州支部会(各分科会)開催報告

国際医療福祉大学同窓会九州支部会では、九月二七日(二時)より総会を実施し、その後、同日、各分科会にわかれ、研修会を実施しました。

作業療法学科分科会

大川キャンパスの長谷麻由先生による基

調講演と同窓生による症例発表会を実施しました。

言語聴覚学科分科会

柳川リハビリテーション病院長の副院長小池文彦先生に「認知症について」の講演をいただき、その後、同窓生による症例発表会という流れで、研修会を行いました。

看護学科分科会

齊藤ひさ子学部長によるワークショップを実施。その後、同窓生の現況報告会およびグループワークによる事例検討会を実施し、最後に、福岡看護学部学友会との交流会を行いました。



●福岡看護学部 看護学科1・2期生

理学療法学科分科会

支部会の翌日二八日に、症例発表会を実施しました。各分科会ともに充実した内容で、無事、終了することができました。

平成二七年度 同窓会海外留学等奨学制度 募集開始についてのご案内

海外の大学または研究機関に「留学」する本学卒業生(修了生)に対し財政的な援助を行う奨学金制度です。
 次年度の募集を平成二六年一二月から開始いたします。応募に関する詳細情報や応募書類(所定様式)は同窓会ホームページから取得できますので、海外留学をご検討の同窓生は、ぜひご応募ください。

<http://maronie-iuhw.ac.jp/>

住所等が変更になった同窓生へ(お願い)

今後も同窓会からの各種ご案内を送りさせていただきますために、住所・勤務先・氏名等の変更の際には、お手数ですが同窓会事務局まで一報ください。
 同窓会ホームページ、電話、FAX、メールでも受け付けております。また、スマートフォンご利用の方は、左記のQRコードもご利用いただけます。
 (お使いの携帯機種により、サーバーに接続できない場合があります。データを送信できない場合は、お手数ですがPCまたはFAXでご連絡をお願いいたします)

同窓会「マロニエ会」事務局
 栃木県大田原市北金丸2600-1
 国際医療福祉大学学生課内
 FAX 0287-24-3140
 Mail office.maronie@iuhw.ac.jp



クラブ・サークル 紹介

久しぶりのクラブ・サークル紹介です。趣味は現在の生活を豊かにするばかりでなく、将来の生きがいにもつながる活動のひとつ。数あるクラブ・サークルの中から、今回は、キャンパスのある大田原市とつながりのある天文部と弓道部を取材しました。



大田原の星空は堪能する価値あり！

天文部 ASTERISK

部長
保健医療学部 理学療法学科2年
柳沢拓臣さん
(長野県野沢北高校出身)

大田原市は、環境省が行う「星空継続観察(スターウォッチング・ネットワーク)」において、過去4回日本一に選ばれたことのある天体観測のメッカ。日の落ちた午後6時、今日の活動が始まりました。

星空 日本一



休止状態だった天文部を復活させた伊東郁さん
理学療法学科3年(東京都立大泉高校出身)



今日は、ふれあいの丘天文館から、指導員の磯直人さん(左)とボランティアの中村司さん(右)に望遠鏡を持ってお越しいただき、月を観察しました。あいにくの曇り空でしたが、雲の切れ間から、きれいな満月を観察することができました。

今回ご協力いただいたふれあいの丘天文館は、休館日を除き、夜の9時30分まで観測を行っています。



以前から星に興味はありましたが、自分が天文部に入るとは思ってもいませんでした。きっかけは、夜、突然先輩に誘われて、那須高原展望台に星を見に行ったこと。その星空を見ていっぺんに虜(とりこ)になりました。

活動は月に1~2回、部員は約50人です。星空のもと、雑談で盛り上がるのも部の活動のひとつです。残念ながら、現在、部で望遠鏡を持っていないので、早く自分たちの天体望遠鏡を持つことが今の目標です。



望遠鏡をのぞくと、月のクレーターがくっきりと観測できました。

那須高原展望台は恋人の聖地とも呼ばれ、星空だけでなく、夜景や日の出が美しく見える人気のビュースポットです。

アスリーナ屋上の稽古場をのぞいてください！

弓道部

部長
保健医療学部 言語聴覚学科2年
中山陽介さん(左端)
(福島県立喜多方高校出身)

大田原市は、弓の名手で知られる那須与一の故郷。源平の「屋島の戦い」で、船べりに立てた扇的的を、見事射落としたことで有名な那須与一にあやかり、那須アスリーナ屋上の弓道場で毎日のように活動しています。

与一の 故郷



弓道を始めたのは高校から。部活見学で「カッコいい」と思ったことがきっかけでした。高校から始める人も多いので、その点は安心でした。

28m先の直径36cmの的を狙う「近的」は、20本射つての中は5割ほど(人によって3割から9割)。矢は意外と重いので風の影響はほとんど受けません。

実際に射れるようになるまでには3か月ほどかかります。その間は「見取り稽古」として先輩の所作を見て学びます。

的に当てるのが目標ですが、作法も重要です。「射法八節」は射の基本動作を8つの節に分けて説明・指導をしているもので、「正射必中」という言葉があります。

左2人目から

- ・小湊賢吾さん 薬学科2年
栃木県立大田原高校出身
- ・美斉津由佳さん 言語聴覚学科2年
長野県上田東高校出身
- ・小野寺希恵さん 言語聴覚学科2年
山形県立鶴岡中央高校出身
- ・上甲夏子さん 医療福祉・マネジメント学科1年
愛媛県立宇和島東高校出身
高校新人戦で愛媛県1位の実績あり

「的中」のほかにも弓道が起源の言葉がいくつもあります。「手の内を明かす」の「手の内」は弓を握る部分の手の形のこと。ここがしっかりしていないと、矢を射れないことから、「重要な技術」を指すようになりました。



時折、稽古場に「しゃっ!」という声が響きます。誰かが的中させた時に全員が発する声。この掛け声は全国共通ではなく、それぞれ自分たちで決めているそうです。